

## 実践② 鹿児島市立中山小学校

### 1 はじめに

本校は、全校児童1434人、学級数55学級の大規模校である。鹿児島市の南西に位置し、校区内にふれあいスポーツランドを有し、校区の中心には鹿児島市自然百選に選定された永田川が流れ、豊かな自然があちこちに残る環境にある。中山小学校の名の由来は、1887年設立当時にあった大字「中」と「山田」の頭文字を取り命名されたと言われている。

読書活動に関しては、一校一改革として「読書100冊達成率95%以上」を掲げ、学校の教育活動全般を通して読書指導に取り組むとともに、平成28年度からPTAと連携し、「つなごう！心と心がふれあう家庭教育～親子読書を活かした取組の充実～」をテーマとして取組を重ねてきた。これらの実践が認められ、令和元年度に「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受賞することができた。

### 2 読書活動の取組内容

#### ■ 定期的に行われている取組の概要

##### ○ 朝読書

朝の会終了後、個人で読書を楽しむ15分間の読書タイムを設けている。(週3回)

##### ○ 本はともだちビンゴカード

学年ごとに9つのテーマを決め、テーマに沿って選書された推薦図書の中から自分の読みたい本を選んで読む。

##### ○ おやこ読書カード

毎月23日を「子供と一緒に読書の日」と定めて親子読書に取り組み、書名や感想をカードに記入する。

#### ■ イベント的に行われている取組の概要

##### ○ クイズオリエンテーリング

##### ○ 読書郵便

##### ○ おすすめの本紹介カード(教職員・児童)

##### ○ 読み聞かせ

・ 図書委員会による読み聞かせ

・ ブラックシアターの上演

・ 教職員による読み聞かせ

##### ○ 夏休み図書館講座

##### ○ PTAによる夏休みの親子読書ワークシートの取組

##### ○ 絵本作家さんによる絵本ライブ

### 3 活動の実際

#### (1) 本はともだちビンゴカード

児童の読書意欲の向上に伴い、貸出冊数が年々増加する中、読書量とともに読書の質を高めていくため、学年ごとに推薦図書を選び、ビンゴ形式で読書を推奨する取組を始めた。(各学年9つのテーマを決め、推薦図書を選定)ふだん自ら手に取ることのない本にも進んで挑戦することで、読書の幅が広がり、読書の質の向上に結びついている。



#### (2) 夏休み図書館講座

夏季休業中の図書館開放を活用して児童が興味をもちそうないろいろな講座を開催し、様々なジャンルの本に親しむ機会を設ける。

【講座例】おはなし会(読み聞かせ)、しおりづくり、理科自由研究、貝殻採集・標本づくり、トリアスロンの世界、図書館落語会、水族館講座(かごしま水族館と提携)、



プログラミング講座（鹿児島情報高校と提携）、英語で遊ぼう 等

### (3) PTAによる夏休みの親子読書

PTAが主体となって親子で取り組める課題（ワークシート）を作成し、夏休みの時間を活用した親子読書に取り組んでいる。毎月取り組んでいる親子読書と違い、本を囲んでじっくりと読書を楽しみ、親子のふれ合いに結びついていると好評で、学級PTAで意見交換も行われている。



### (4) 絵本作家による絵本ライブ

PTAの協力の下、絵本作家を招聘（しょうへい）し、「絵本ライブ」を開催している。これは、創立130周年記念事業として始まり、児童が本物のよさに触れる貴重な機会として継続した事業となっている。学校図書館では毎年、児童と共に特設の感想文コーナーを設けたり、挿絵の巨大貼り絵を制作したりしながら開催への期待感を膨らませている。ライブでは、作家本人の語りによる即興での絵描きを目の当たりにして、更に作品への愛着や作家への親しみが生まれ、絵本ライブ後も関連図書を手にする姿が見られ、読書意欲の向上に大きく寄与している。



## 3 おわりに

機会あるごとに小さな取組を積み重ね、児童の読書意欲の向上に努める中で、児童の図書貸出冊数が大きく伸びてきた。また、幅広いテーマやジャンルを扱うことで、読書から遠のきつつある児童の興味・関心も刺激することができ、昨年度は98.3%の児童が年間図書貸出冊数100冊を達成し、未読者もいなくなるなど、読書の底上げをすることができた。さらに、司書教諭と学校図書館司書とが連携を密にすることで、円滑な図書館運営、読書環境の整備、授業での図書資料活用の増加につながっている。これからも職員間やPTAとの連携を大切にし、児童の読書意欲のさらなる喚起に努めていきたい。